委員会だより

＜9月3日（日）　9名出席＞

［1］　財務報告：

7月、8月度決算報告(甲斐さん)

→　委員会了承。

［2］　お知らせコーナー：

(1) 雨漏り修理(御聖堂、幼児室、台所付和室):
ひどくなり、神父様と相談し緊急に手配。(有)店橋工務店に依頼し修理済み。費用は、¥142,900。

(2) 夏季学校を8/4～8/5に開催：対象者6名参加、加えて神学生の方などが参加して、総勢12名が参加。無事終了。

(3) 第六回卓球大会開催(8/27):
実行委員の皆さんのご尽力で盛況、無事終了。また、終了後の懇親会準備にお骨折り頂いた婦人会の皆さんに感謝。

(4) 敬老ミサ(9/10)の準備、段取り:
・御絵プリント準備済み(小野)、
総体の準備は、小山さん、石井さん。
・当日は、婦人会の方に接待をお願いする。
・ごミサ終了後、お聖堂で、記念写真撮影、記念品贈呈。(注：記念品代 ¥80,399)

(5) 一粒会の会議が、10/28 7;30pmより藤沢教会で開催。小谷さんが出席される。

(6) クリスマスの飾り付けの件:
待望の飾り付け人形が、8/29に入荷した。費用は、¥74,675。

［3］　お話し合いコーナー：

(1) 信徒台帳の作り直し:
カトリック全体の登録システムの変更により、信徒台帳の根本的な作り直しが必要。膨大な作業であるが、開始は神父様の現在の仕事が終わってからとのこと。スケジュールを早急に決めること肝要。

(2) 宣教司牧評議会の「環境問題アンケート」:
・甲斐さんに、「地域」との関係を中心に叩き台をまとめて頂けることになった。
・併せて、壮年会、婦人会で審議頂く。

(3) バザー(10/29)準備の件:
・バザー委員会の初顔合わせを、9/10に行う。なお、バザー委員は、
婦人会：阿部(映)、望月、位田、
壮年会：井上、他2名、
総合会計は、甲斐さん。

(4) 御聖堂の椅子の修理:
ネジが緩み使えない椅子が多い。壮年会の後にご奉仕で修理。(花坂さんご提案)

(5) 7月度の委員会で審議、決定された
「セミナーなど、参加活動費の取扱い」に端を発して、婦人会で議論があった旨、紹介あり。議論の主旨を、『委員会だけで動くのではなく、皆が参加出来る開かれた教会へ』に向けてのご提言と受けとめ、改善努力していくことを確認した。　以上

壮年会だより

＜ 9月24日(日) 14名出席＞

(1) バザー会場設営10.28(土)am10:00より
内容; シート張り、テント3張り開設

(2) バザー壮年会出店内容及び担当者
焼き鳥(800本):　鈴木さん
焼きそば(100):　石井さん
焼きイカ(100):　七浦さん
ビール,ジュース(各50):　萩原さん
チケット売り:　山田さん

(3) その他バザー諸係
バザー総体責任者:　清水委員長
総合会計:　甲斐さん
模擬店開催届け出:　清水委員長
ポスター:　小谷さん

婦人会だより

＜9月24日（日）　30名出席＞

1. 委員会報告

2. おむつ縫い: 奄美の園よりお礼状が届く
「長い間おむつを送って頂き有り難うございます。布おむつは今後使用しなくなりました。」

3. お知らせ事項

① カトリック同志会
・黙想会　テーマ「これからの教会」
10月12日(木) 1:00～ 横浜カトリックセンター
参加費　1,000円
・観劇会　11月16日(木) 新橋演舞場
参加費　1,000円
参加希望者は10月1日までに阿部さんまで

② 生涯教育講座　いのちの輝きを求めて
10/7,14,21,28 2:00～ 大和教会
参加費　1回 500円
参加希望者は直接大和教会へ

③ デュークエイセスコンサート(いのちの電話主催) 10月27日(金)
希望者は申し込み表に記入して下さい。

4. バザーについて

① 食堂:
カレー　300円 (300食)
みそおでん　100円 (200食)
ケーキ、紅茶 150円 (200食)
草餅　150円 2個セット
保健所からの注意事項説明

②古着、雑貨の箱が出ていますので協力下さい
・製作品、古着、雑貨は10月8日までです。
・値段付、古着整理は10月17日 10:00～
・食券は10月1日より販売
・バザーのお手伝いの表にご記入下さい。
・バザーのケーキ作りを下記にて行います。ご協力お願いいたします。
日時: 10月26日(木) 13～16時
場所: 立場地区センター　調理室
持ち物: マスク (三角布は用意します)

10月の当番はA地区です。

以上

なかわだ会報

第207回

10月号

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
Tel. (045) 803-6141
1995年 10月8日

今月の予定

世界宣教の日　10月22日
バザー　10月29日
サロン　10月8日,22日
レジオ　10月13,20,27日

そして、それから ③

山崎 正俊

太平洋上の自分たちの支配下にある島を利用して、原爆の地下実験をする計画を発表した、ヨーロッパの大国がある。時代が変わったせいであろうか、すぐに世界のあちこちからの中止するようにとの反対運動がおきた。まず、その国の人が中心になって、その島の近くの海上を船で、意志表示のデモをしたら、そのまま一緒に捕らえられてしまった。その大統領は、その決定は必要であるから中止するつもりはないとの宣言を繰り返し、計画も進んでいることを見せつけた。何処かの大国が核戦力を持っているなら、自分たちの意向を認めさせるのに、これは当然の権利であると、全世界にむけて明らかにしたのだ。核戦力が弱いために、不当な圧力に屈しなければならなかったことは、もう我慢できない。

私もそう思う。いまもその力を誇示しながら、勝手に実験を続けているのに、その残虐を脱れようもない害には知らん顔で通し、日本に落としてから、あちこちの実験場やその付近ばかりか、人々を恐怖におびえさせ泣き寝入りさせ、その効果をあげようとして恥じない。原子力の平和利用とは云いながら、その発電所からの放射能のまきちらしは防ぎようがなく、この五十数年間とこれからの核廃棄物の処置のことはどうなっているのか。核兵器の管理の乱れも秘密にできなくなっている。だからこの要求を断れないはずだと云われるのにはどう答えるつもりか。核全廃！

このようなことを、いままで強く云えないでいたのは、どの国もそれを手に入れたいとあせっており、それを必要としていたからではないか。それを造ることがむつかしいことがわかって、その害のひどさを云いたてることにしたのではないのか、とイバッテおる。これからさきどれだけの人と時代が、苦しみのうちに解決をまちながら、ひたすら耐えつづけねばならないのか。この程度のことを書くだけでも、何故か身も心もなえるほどだ。

自分たちの犯罪だから、何とかして、自分たちはあのとき、よりよい道を選んだと思い込み、「多くの死者を出さないためにしたことだ」と、云いつづけている。そうでもしないと、心の安らぎが得られないのではないかと私は思う。——「眼には眼を。歯には歯を」ぐらいのことでは、充分な仕返しとは認めぬという考えは、旧約の時代からの禁じられた掟ではなかったか。「右のホオを打たれたなら、左のホオを差し出せ」なんて嫌だということは、ほとんど承知されていないで、新約聖書に記されたままで、心の何処かに薄れてしまったのか。それで善意を保っているといえるのか。恥ずかしいという反省はないことになっているらしい。説教台の前に、キリストの教えを述べにくいので、このことについては、だまったままの立ち往生しかないほどなのに、神様はどうしろと云われるのだろう。——毎年のように、八月六日、九日、十五日はやって来ておる。そして、その日は、あの思い出の日として記念される。ヒロシマとナガサキにおいては、それこそ世界の果てからも連れだっての参会者があって、あのピカドンを落とした国からも来る人があるとか。あちこちにある記念の碑のイミが改まる・・・・・

聖地を巡礼しました (5)

アッシジと聖フランシスコ (2)

甲斐　至信

アッシジの町は坂が多い。広陵斜面の街を縫う道路網は中世のままで、上り下りの小路や階段で結ばれています。道の両側はスバジオ山の石で造られたこれも中世のままの家が並びます。2階、3階までも積まれた粗削りの石は何世紀もそのままの姿で、まるで時の流れが停止したような表情をしています。ここは中世が今なお君臨する町です。

城壁には8つの門がありますが、そのうち3つは12世紀のもので、他は14世紀のものだそうです。
街のほぼ中心にフランシスコの生家があり「フランシスコの父親の家」と呼ばれ現在は教会として残されており、私たちは到着後まもなく、ここでハヤット神父様によりミサを捧げました。

フランシスコは1182年アッシジの裕福な毛織物商の父ピエトロ・ディ・ベルナルドーネと母マドンナ・ピカとの間に生まれました。身分相応の高い教育をうけラテン語やフランス語なども学んでいたが、金銭を湯水のように使い青年期を無軌道におくり、街の「祭り王」などと呼ばれました。

19歳の時に功名心にかられてアッシジ軍に加わりベルジアと戦い捕虜になり一年間抑留されてしまい、その後南イタリアでの戦いに参加しましたが、途中ポレストの町で病気になり、そこでの療養中に最初の神の声を聞いたのです。

フランシスコに主が仰せられた。「フランシスコ、家に帰りなさい。そこであなたのなすことが知らされる」・・・・フランシスコはアッシジに戻り教会や町外れの洞穴で祈り、主の言葉を待ったのです。

十字架の聖像は語られた
「フランシスコ早く行って、私の教会を建て直しなさい。私の教会は今にも倒れかかっている。」フランシスコは「はい 喜んで」と答えた。

聖ダミアーノ聖堂のピザンチン十字架の前で祈っているとき、十字架の聖像が語られた。「フランシスコ、早く行って私の教会を建直しなさい。私の教会はいまにも倒れかかっている。」
フランシスコは『ハイ、喜んで』と答えた。そして、まず荒れ果てた聖ダミアーノの聖堂の修理に取り掛かった。修理に必要な資金は家にある高価な織物や馬を父に無断で売り払ってしまったのです。父は怒り彼を一室に閉じこめました。しかし、母は彼の行為に理解を示し部屋の鎖を解いた。

父親の訴え、裁判、司教の薦めなどがありフランシスコはお金を父親に返し、さらに自分の着物、持ち物を父親に差し出し、父と決別し施しを求めながら徹底した清貧の生活で、聖ダミアーノ、聖ピエトロ・テラ・スピーナ、ポルティンクラなど三つの聖堂を長い年月を経て再建しました。

アッシジの国鉄駅の近くに「天使の聖母大聖堂」があります。聖堂の内部には大きな空間があり、普通なら主祭壇のあるところに、フランシスコが再建したポルティンクラの聖堂が700年後の現在も当時のままの姿で残されています。フランシスコがこよなく愛し神が特別に恵みを与えられた聖堂です。小さな質素な聖堂です。

天使の聖母大聖堂の中の小さな聖堂
聖フランシスコが再建し、神が特別に恵みを与えたポルティンクラの聖堂が、700年後も当時のまま残されている。

1210年フランシスコは、アッシジから11人の弟子と共にローマにのぼり時の教皇イノセント3世に接見し、自分たちの《キリストにならう使途的清貧主義において隣人の救いに尽くそうとする運動》に修道会として認可されることを願い出ました。

ところで、歴史家によると、フランシスコが修道会設立を願いでたその時代について、次のようなことが述べられています。

【　その当時は、一世紀にも及んでいた原始キリスト教への回帰を目指す清貧主義的宗教運動が、イノセント3世の時代に入りいよいよ激しさを加え、保守的なカトリック教会と時に厳しく対立していました。
これら宗教運動家の徹底した無所有に対する熱情は、封建貴族化した高位聖職者の反感をそそるのに充分であったし、巡回説教師として一所不在の運動家は教区にとっても誠に扱いにく存在であり、そのうえに宗教運動が公認の団体になり民衆を引き付けることは、教区聖職者ばかりかりでなく、既存の修道会にとっても迷惑なことでした。

イノセント3世は、このような宗教運動に対して、最も弾力的な方法でこの問題を解決しようとしました。すなわち、宗教運動に対して異端を含めて、カトリック性を失わないあらゆる宗教運動にはたらきかけ、これを積極的に指導し教会に吸収して、教会の守りにつかせることにしました。

そして一方では、この指導に従わないものは、異端として徹底的に弾圧がおこなわれました。

このような時に願い出たフランシスコの修道会設立の認可は容易でなく、教皇はフランシスコの活動の継続を口頭で認めただけで、直ちに修道会則の認可を与えようとはせず、むしろ既存の修道会のいずれかを選ぶように薦めたとも言われています。

教皇はフランシスコの運動が間違いなく教会の規律の中で行なわれるように、また、フランシスコとその弟子たちに剃髪を命じ、教皇に対する絶対の服従を誓わせた。そのうえで次のように述べて彼らを祝福し力づけることを忘れなっかったのです。

『主と共に行け。そして福音を宣べ伝えよ。主のお恵みにより仲間を増し殖やしたあかつきには、喜んでまた来るが良い、そのときは今よりも多くのことを許し、必ずや重大な任務を与えよう。』　】

フランシスコはポルティンクラを根拠地にして伝道を行ない、太陽、月、星、風、空気、雲、空、天候水、火、大地、人、死、即ち全ての被造物を通して与えられる神の恩恵をさとり、神を賛美しました。
フランシスコにとって全ての被造物は兄弟であり姉妹であり、特に人間は愛すべき兄弟でした。たとえ、盗賊であっても、迫害者であっても、フランシスコは、みな愛すべき兄弟として彼らに接しました。
1221年貴族の令嬢クララを指導し、また他の女性たちも加わりクララ会を設立。在俗信者のために第3会を設立したのです。そして1223年11月29日、フランシスコはホメリウス3世から修道会則を明文化することを許す勅書をうけることができました。

フランシスコの自筆による会則は、他の遺物と共にレリクイエ礼拝堂に保存されています。

1224年ラ・ベルナ山に登り40日間の断食と黙想を行ない、キリストの受難の苦しみを自分に与えられることを願い、そして激しい苦しみの中で、キリストとの一致による魂の平和と喜びを体験、そのしるしとして聖痕を授かりました。

その後、神えの賛美と感謝にあふれた「太陽の歌」をつくり、1226年10月3日ポルティンクラで、詩編「わたしは声をだして主にさけぶ」を唱えながら、44才で清貧のうちに感謝の心で「姉妹なる死」を迎えました。その時、フランシスコの弟子は、世界中に数千人にも拡がっていました。

聖フランシスコの僧衣
聖フランシスコを最も雄弁に語る粗末な僧衣。地上の富からの隔絶を物語っている。

多くの聖者のなかでも、フランシスコほど民衆に親しまれ、愛された聖者はいないでしょう。彼は小児のように純粋でひたむきで、神の言葉をうけては一瞬たりともためらい、疑うことはなかった。

死後、多くの奇跡がフランシスコの取次によっておこり、その聖徳が充分実証され、教皇グレゴリオ9世は1228年7月16日、フランシスコを列聖されました。

カトリック教会の歴史に変革をもたらした、聖フランシスコと聖ドメニコの登場した13世紀前半は、日本では鎌倉時代ですが、法然、親鸞、日蓮、栄西、道元などの宗教家が相次いで活躍し、鎌倉仏教とも言われる一連の諸宗派が誕生した日本仏教の変革の時代でもあります。

何の歴史の脈絡もないと思われる洋の東西が、一本の糸で結ばれたように共に変革の時代を迎えたこは、歴史の不思議さを感じます。

第5回おわり

お知らせ

｛バザー　　10月29日（日）9時御ミサ後。テーマは、親睦、教会建設資金積み立て、及び対外支援。皆様のご参加、ご協力を宜しくお願い致します。

｛道路工事　　10月頃から当教会の周辺で道路工事が始まります。来年前半には車の通行　　に若干の影響が出ることも予想されますのでお含み置き下さい。

ミサ 当番表 (10、11月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	備考
10 / 1	年間第二六主日	小 野 寺	岩 渕	11 / 5	年間第三一主日	岩　渕	石 川	壮年会
10 / 8	年間第二七主日	青 年 会	石 川	11/12	年間第三二主日	青 年 会	森 田	青年会
10/15	年間第二八主日	婦人会 A地区	森 田	11/19	年間第三三主日	婦人会 B地区	大 宮	婦人会
10/22	年間第二九主日	宮　崎	大 宮	11/26	王であるキリスト	小　野	岩 渕	壮年会
10/29	年間第三十主日	婦人会 A地区	岩 渕					

※当番の方は10分前には集合して下さい。

※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。　（萩原: TEL 802-6258）

委員会だより

＜10月1日(日)　9名出席＞

［1］　財務報告：9月度決算報告(福島さん)
　一　委員会了承。
なお、本年度より、火災保険の料率が変わり(0.74ー0.89)、支払金額は、¥67,130ー¥79,280となる。

［2］　お知らせコーナー：
(1) 雨漏りの件：
今回修理した箇所以外に、
・幼児室入り口近辺、
・お聖堂の窓枠、
などに雨漏りが発生し、神父様と相談の上、再度業者に調査を依頼した。
(2) 敬老ミサ(9/10)：
・婦人会のご協力を頂いて、無事終了した。
・敬老会メンバーの方より、「お祝いの言葉」に対して、「お礼の言葉」を述べる機会が欲しいとの要望があった。来年より、配慮する。
(3) バザー(10/29)準備の件：
・バザー委員会の初顔合わせを、9/10に行い、役割・担当を決めた。
・バザー目的は、昨年度と同じ「親睦、対外援助、並びに教会施設充実」とする。
阿部さんより、「対外援助」の内容(援助先)を見直したい旨、要望あり。
(4) 秋期典礼研修会(10/1 於横浜カトリック・センター)に清水さんが出席される。
(5) 第二回横浜教区福祉委員会主催セミナー(10/14 於横浜カトリック・センター)に清水さんと小山(恭)さんが出席される。
(6) 山崎神父様が黙想会へご出張(11/13 - 11/16 於中軽井沢修道院)、留守当番表を11/5に貼りだしますので、ご協力下さい。

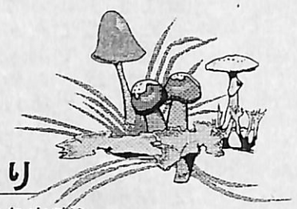
［3］その他：
(1)下記の生涯教育講座が大和教会にて開催される。自由参加であり、奮って参加下さい。
・タイトル：「いのちの輝きを求めて」
・主催：　ぶどうの木の会
・共催：　大和・生と死を考える会、カトリック大和教会、スミレ幼稚園
・日時：　10/7 - 10/28(計4回)
(2)一粒会委員改選：
小谷さんより、山崎神父様に提案中。

以上

壮年会だより

＜ 10月15日(日)　13名出席＞

1. **バザー準備**
10/28(土) AM10:00より、テント、床等
当日のミサはPM4:00とPM7:00の二回あります。
2. **ハイキング**
11/12(日)ミサ後に予定。
場所：四季の森--横浜線の中山下車
1:00～1:30程度のコースで、交通費は個人負担とする。
ポスターを10/22に貼り出す。
担当責任者：山田さん
3. **その他**
・教会の外灯がないので夜間に教会に来ると、暗くて危険との指摘があった。
クリスマスまでには取り付けることとした。



婦人会だより

＜10月15日(日)　26名出席＞

1. **委員会報告**
敬老ミサ及び祝会でのお手伝いに対し、婦人会にお礼の言葉を頂きました。
2. **山崎神父様11/13～11/16日迄黙想会**
御出席の為お留守になりますので、その間の留守当番をお願いします。
3. **小野寺さん、伊藤さんご退院**
引き続き皆様のお祈りをお願い致します。
4. **会計よりお願い**
今年度の会費未納の方はお早く納入下さい。
5. **バザーに関する件**
・今回は前日の準備としてはカレーとおでんの二種類なので、お手伝いは午後一時からとします。なお4時から御ミサがありますので、婦人会の皆さんはなるべくあづかって頂きたい。お掃除もいすを掃く程度にします。
・10月26日(木)午後一時よりケーキ作りを地区センターで予定通り行います。紅茶パック余分に有る方はご寄付下さい。
・包丁、皮むき、大きめのフライ鍋をお持ちの方は持ってきて下さい。
6. **その他**
11/3(金)初金ミサを物故会員の為のミサとしてお捧げします。山下さんのお母様の為のお祈りも一緒にしたいと思いますので、都合のつく方はご参加下さい。

次回当番はＢ地区です。

以上.

なかわだ会報 11月号

第208回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
Tel. (045) 803-6141
1995年 11月5日

今月の予定

司祭黙想会	11月13～16日
七五三	11月15日
サロン	11月12日,26日
レジオ	11月10,17,24日

そして、それから ④

山崎 正俊

それでも、アメリカでは、異った意味をも含めた記念式典が盛大に競い合うようにおこなわれているという。これまでの日本でも今年になってはじめて、痛悔の情がおもてだてて、はっきりとした形式で加えられることになり、アメリカでも日本のミサに合わせて、同時刻に、ささげられる祈りと決意が、戦争の犯罪性と無謀性を反省しながら、平和の元年としての、敵味方の区別なしの謝罪と追悼の式典になっているとか。

あの十五日の私は、あの刻には、何も知らずにいた。その行方が何を目指しているかは考えないまでも、それまでしていた仕事はとりやめて、命じられるままに、祖国を外敵から守るための順番に当っている若者の一人としての、だから、兵隊として前線にいた。

いまは、反省している。「悪かったなどというようなことで終りになる」などのような問題とは、まったく無関係なものであった。

―― 戦争ってものならば、その場におればキビシイもの。仲間たちはツライ思いに耐えているとしても、生きていることはツラサに負けてなどおれないものだから、私にとっては眼の前にあらわれて来るものを、何んであっても、よいしょっと乗り越えてゆければそれでよい、ほどのものだった。それで、次の瞬間の死を予測しながらの「いま」を意識するというのではなく、それぞれの寸秒を日常のこととして送り迎えするだけの、続きごとのようなものだった。

カネのチャワンにカネのハシは、ホトケさんだけのことではないのだから、自分の生死についてだけを、気に掛けるのはおかしい。此の世に生まれたからには、いつかは死ぬ時にぶつかるはずのもの。「死」について恐れる理由とは何んだ。そこで弾に当たる奴ならば、内地でだったら、車にでもぶつかられて死ぬような奴とも云えますよ。兵隊にとられたから、早く死ぬというようなことではなくて、そのときに死ぬという運命であったということですよ。――これは誰が教えてくれたことだか、わかりますかナ。お世話になっていた下宿の当主・警視庁の巡査部長さんが、夜勤明けの夕食のときの酒のうえ疲れ休めの「キョウクン」。そのときの私は、二十才を間近かにしていたはずでしたが、いやもう、びっくりしたりあきれたりでしたよ。

「戦争は犯罪です。なにも解決しません」といま頃になって云われても、あのときの私に何が出来たでしょう。「神さんよ。俺に罰をくれたければ、そうしなさいよ。それがきまりなら、そうしなければなるまいからね。俺はそのまま、地獄であろうが、何処であろうが、その信仰に従って、ハガミをしたり、クヤシがったり、大喜びでしますよ。良いことなら従うけれど、嫌なことなら断わるなんて失礼なことはしません」――なんでそのようにされることになるのかだけは知りたいですがね。これまでは、クヤシイことばかりで、このままでは、割りに合いませんよ。

最後のことですから、これぐらいのサービスはどうですかね、神さんよ。――「トルストイぢいさんのヤツアタリ結論（キリスト流の生き方）その精神の読み取り・戦争や兵役を排斥するところに、教皇ヨハネ・パウロ２世の重いが重なったと信じさせてください」

1995.8.19

一枚のビラ

小野 雅彦

なにかの席で申し上げたこともあるが、小生がカトリックの一員になったのは、幼児洗礼でも何でもなく、たまたま学生の時分に、東京の池袋の駅頭で一枚のビラを貰ったのがきっかけである。

このビラは、上智大学の「かつらぎ会」という、伝道を主たる目的とする団体のカトリック公教要理の講座のビラであり、以来、これに通い出したのが始まりとなった。

それまでは、あまり積極的な意志はもたずに、聖書も「眺めたことがある」程度で、あまり宗教にかかわらずにいたが、講座を担当しておられた神父様のお話に引き込まれて、洗礼を受けるに至った。

加えて、その「かつらぎ会」で家内と知り合って結婚したこともあり、自分が今日あるのは、一見「偶然」の積み重ねの様に思える。たまたま、ビラを配っていた時に、通りかからなかったら今日の小生はなかったであろうし、雑踏のなかで配っている人が、小生に渡さなかったら、全く違った人生となっていたと思うし、またこれを摂理的に考えるのも、あまりに不遜の様に感じられた。

ところが、以前は、我ながら「偶然」の積み重ねを面白く感じていたが、最近は、「果たして、これは偶然なのか？」と考える様になって来た。

まだまだ若輩の平凡なサラリーマンとはいえ、四半世紀もの間、社会の荒波に揉まれていると、人と人との出会い（敵対も含めた）、いろいろなかかわりに多く接して来た。客観的に距離を置いて眺めてみると、全ての出会い、かかわりあいが決して偶然とは思えない場合が多い。

そこで、多少支離滅裂かも知れないが、

(1) この世に生まれて来た人は、自分の「主張（言い分）」を持っている反面、誰もが（与えられた器を満たす様に）「使命（役割）」を神様から与えられている。

(2) キリスト教は、本質的に「人を通して」の宗教である。 例えば、

- 周囲の人をないがしろにして、神様に祈ったところであまり意味がない（勿論、祈らないよりはマシではあるが）、
- 同一人物が、ある人にとっては天使として映るが、別の人にとっては悪魔として映る場合がある、

等々。

(3) こう考えると、神様が、その人間に課した役割を果たす環境が、全てサイコロを転がす様な偶然の連鎖で出来ているとは思えない、．．．というのが単純な理由である。

まあ、偶然にしろ、必然にしろ、摂理にしろ、後半戦に入った人生、いろいろな人との出会いを大切にしていきたい。

バザー収支報告（速報）

概算の報告ですが、このたびのバザー収入（利益）は、**約 37万円** となりました。現在まとめの作業を続けていますので、近日中に確定報告いたします。
皆様ご協力有り難うございました。

バザー総合会計　甲斐 至信

訃報

パウロ　位田　義男（六十四才）

十一月二十六日　御逝去（午前五時十九分）
二十七日　お通夜　二十八日　葬儀ミサ

位田さんを偲ぶ

十月二十五日夕方六時頃、山崎神父様より位田さん入院の電話が入りました。それが今回の悲しいドラマの幕開けとなってしまったのです。二十六日午前五時十九分帰天の続報、私は頭を鉄槌で「ドオン」と殴られた感じでした。中和田教会での、通夜、葬儀ミサ、告別式、そして戸塚斎場、延べ七十一時間の慌ただしい閉幕でした。改めて広報「なかわだ」に発表された位田さんの寄稿文を読み返してみました。

中国の朋友　一九八八年二月

中国では初めて会った人は、「新朋友」、二回目に会った時は、「老朋友」と云われます。彼の数多い「老朋友」のなかの一青年との学習、聖家族のご絵を通じての交流が書かれています。中国に根づいたかれの人となりが判ります。

庭木の思い出　一九八九年七月

三十八年前名古屋で洗礼を授けて下さった、ミルバウエル神父様と秋葉町教会での二十年ぶりの再会、神父様がお体をこわして入院されるに際し、シンビジューム、ホリ（西洋ヒイラギ）、バラを頂き、自宅の庭に移植、尚同教会の吉武さんより、ライラック、海棠、満点星（どうだんつつじ）を頂き、暇をみて手入れ、四季折々の楽しさを味わっていました。現代社会で静かな時間をもつ大切さ、心の安らぎを忘れない様にしているかれの姿が目に浮かびます。

二年目を顧みて　一九九三年一月

彼の上手な運営のしかた、婦人会、子供達へのハイキングの誘い、卓球大会の定着、中和田サロン、ミサ後の歓談、教会内のコミュニケーションを充実させ、親睦の輪をひろげてくれました。

三編の寄稿文を簡単にまとめさせて頂きました。位田さんの人柄、そして活動がおわかりと思います。葬儀の際に勤務先の代表の方が、如何に位田さんが掛け替えのない方であるか、亦中国の方々より信頼されていたかお話されていました。私共の教会でも然りです。また会う日まで、かみのまもり汝が身を離れざれ・・・・こみあげる涙を押さえ、位田さんの帰天をおくりました。棺のなかの彼の胸に奥さんの書かれたお手紙が生花に囲まれてそっと置かれていました。おしゃれなおしどり夫婦がと思いますとまた熱いものがこみあげて来ます。これでドラマが終わったのではありません。位田さん安らかに、また会う日まで。

平成七年十月三十日

清水 聖

お知らせ

- 転入　吉田 恵子（セシリア）　泉区中田町1765 和泉ハイツⅡ202　Tel (804)5282
  宮崎 親人（マルセリーノ）　宮崎さんご長男
- 洗礼　美底 夏織（マリア・ヴィンセンシオ・チマッチ）　美底さんの次女（95.5.7生）

ミサ 当番表（11、12月）

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	備考
11 / 5	年間第三一主日	岩　渕	石 川	12 / 3	年間第二六主日	滝　川	石 川	壮年会
11/12	年間第三二主日	青 年 会	森 田	12/10	年間第二七主日	青 年 会	森 田	青年会
11/19	年間第三三主日	婦人会 B地区	大 宮	12/17	年間第二八主日	婦人会 C地区	大 宮	婦人会
11/26	王であるキリスト	小　野	岩 渕	12/24	年間第二九主日	石　井	岩 渕	壮年会
				12/31	年間第三十主日	婦人会 C地区	石 川	婦人会

※当番の方は10分前には集合して下さい。
※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。（萩原：℡ 802-6258）

委員会だより

＜11月5日(日)　11名出席＞

［1］財務報告： 11月度決算報告(福島さん)
一　委員会了承。
尚建設会計に、山崎神父様より特別献金¥2,600,000 (神父様軍人恩給)、匿名特別献金¥15,226があった。有り難うございました。

［2］お知らせコーナー：
(1)位田義男氏ご葬儀にご協力頂き、有り難うございました。
(2) 一粒会報告：小谷さんが、10月28日に開催された一粒会会合に出席され、その報告を頂いた。
(3) バザー(10/29)の総括：
・速報ベースで、収益金は、約37万円。
・最終バザー委員会(収支、反省)を、11月18日(土)に開催する。
(4) 秋期典礼研修会(10/1 於横浜カトリック・センター)
・清水さんが出席された。聖体奉仕者のお話が主体（溝口神父様）。
(5) 第二回横浜教区福祉委員会主催セミナー
（10/14 於横浜カトリック・センター）
・清水さん、小山(恭)さんが出席された。他教会の動きもそれなりに出てきた様で今後も注視要。
(6) 山崎神父様　黙想会へご出張(11/13 - 11/16)

［3］お話し合いコーナー：
(1) 青少年問題の件：
従来、故位田副委員長が中心となられて推進してきたが、今後は鈴木富雄さんを中心に進めていきたい旨清水さんの提案あり。委員会として了承し、別途清水さんが鈴木さんにお願いする。
(2) カトリック教会の公用書式が変更される件：
・10月8日に神父様、清水さん、(故)位田さんが段取りを打ち合わせ、10月12日清水さんが作業開始。
・人数等確認し、96年1月に教区へ報告する。
(3) 赦しの秘跡：12月3日 (二俣川 鵜飼神父様)
(4) 年末の大掃除：12月16日(第三土曜日)10:00AM
からに決定(壮年会、婦人会ともに)。
(5) 12月24日ご降誕ミサ、及びお祝いパーティの件：
・12/24は日曜日故深夜ミサは7:00PMからとする。
・パーティは委員会で段取り決めるが、婦人会にご協力願いたい一婦人会役員会に諮る(阿部さん)
(6) 教会委員の任期は95年12月まで。
神父様、壮年/婦人両会長で推薦者を決め公示
(7) 96年の年間予定表の案： 清水さんより提示あり(96年は堅信式あり)。
＊ごみ焼却炉に穴があいてしまい、危険なので何とかして欲しいとの要望あり。

壮年会だより

＜ 11月19日(日) 15名出席＞
バザーの反省会を実施。

婦人 会だより

＜11月19日(日) 34名出席＞

1．委員会報告
2．クリスマス前の大掃除
12月16日 10:00～
3．バザーの反省
諸意見が出されましたが、皆様のご協力で無事終了することができました。本当に有り難うございました。
4．来年度役員候補
A地区: 巣田さん・(丸田さん)
B地区: 山本さん・中島さん
C地区: 甲斐さん・冨田さん
D地区: 山田さん・島倉さん
5．転出
横塚さんが福岡市に引越されましたので、お餞別を送りました。

◆ 12月3日　赦しの秘跡 9時御ミサ時
◆ 12月24日　御ミサ時間は am. 7時、9時　pm. 7時。pm.7時後にお祝いのパーティーがあります。
◆ 12月25日　御ミサ時間は am. 10時です。

ミサ 当番表（12、96/1月）

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	月/日	主日	朗読、奉納	オルガン	備考
12/ 3	待降節第一主日	滝　川	石 川	1 / 7	主の公現	井 上	森 田	壮年会
12/10	待降節第二主日	青 年 会	森 田	1/14	年間第二主日	青 年 会	大 宮	青年会
12/17	待降節第三主日	婦人会 C地区	大 宮	1/21	年間第三主日	婦人会 D地区	岩 渕	婦人会
12/24	待降節第四主日	石　井	大宮/岩渕	1/28	年間第四主日	橋	石 川	壮年会
12/31	聖家族	婦人会 C地区	石 川					

※当番の方は10分前には集合して下さい。
※ご都合の悪い方は典礼委員までお申し出下さい。 (萩原: Tel 802-6258)

なかわだ会報

第209回

カトリック中和田教会
広報委員会発行
泉区 中田町 2701
Tel. (045) 803-6141
1995年 12月3日

今月の予定

赦しの秘跡	12月3日
委員会	12月10日
主のご降誕	12月25日
サロン	12月10日
レジオ	12月8,15,22日

そして、　それから　⑤

山崎 正俊

豊臣秀吉(とよとみ・ひでよし)とキリスト教との争いの話しがとりあげられていたのは、NHKの九月二十一日の夜のテレビであった。そこでは、これまでの日本の教会の歴史では、あまり話されていなかったことが説明されていた。イエズス会では、布教の費用を、ポルトガル商人のおこなう貿易に便乗した多大の利益からも得ていたとある。南北アメリカやアフリカ、そして印度やアジアの各地でもおこなわれていたことであったからだろう、何んの良心のトガメもなくおこなわれていたことのようで、当然のことであった。

ところが、多額の経費を必要としていた秀吉の計画と対立することになり、それが宣教師追放の口実とされた。イエズス会士の側では、布教の根拠地として入手した長崎の地に要塞を築いたり、ポルトガル皇帝からの兵の約二百人ほどを送ってもらおうなどと考えたうえで、東アジア宣教の責任者でもあった上長に依頼の手紙を出したりした。けれでもそのようなことは、日本での手段としては適当でないとされて、さいわいなことに、実現されなかったが、サン・フェリペ号の事で、その積荷のほとんどを取り上げられると、悔しまぎれの水先案内人の、世界地図をひろげての暴言(そのようなことをしたら、いつものように、ヒリッピンにいる提督が起こって、砲撃をするだろう)を聞かされ驚嘆したり、キリシタン大名たちが誰も、そのオダテに乗ろうとはしなかったことには安心したのだったが、やはり、せっかく手に入れた天下は失いたくないから、先手を打つことになって、迫害は厳しさを増してしまった。

他にいろいろの理由が重なったのではあるが、あの二十六聖人の殉教の姿は、人々のナグサメとハゲマシになるほどのものであり、何か月の間か、港に出入りする船舶からも見える丘の上の刑場にさらされていたのだし、「喜び勇んで天国にのぼった信徒たちの、ひからびた姿」は奉教人をふやすものとなって、指導者たちの思いを超えた。

禁止命令にしたがった布教は、ひそかにおこなわれていたのに、フランシスコ会士たちがやって来て、京都などに家を与えられたりしたうえに、布教活動を大っぴらにはじめたりしたから、それがトガメラレルことになったのだ。それで、みせしめのために捕らえられて殺されるようなことになり、ついでに連座したイエズス会士も、迷惑の至りになる。布教所で捕らえられたものだから、救いを出すこともできず、見殺しにしてしまったのだ。

ペトロ・バプチスタ神父は、罪名を記した立札の文字の意味を、長崎で処刑場の近くに着いたとき、はじめて教えられ、ひざま付いて、涙とともに感謝の祈りをささげた。イエズス会士のパウロ三木は十字架のうえで、堂々と自分の信仰を述べ伝えた。——後年、イエズス会士は、自分たちの会員が何をしたのかは云わず、フランシスコ会士の誤りだけを主張して、あれは、まことの意味での殉教ではなく、自ら招いた禍だとの解説をした。

テレビの出演者は二十六名の純粋さを、それでも、とってつけたように「信仰に生き切った者」と語っていたが、この頃、バチカンの図書館で発見された、当時の古文書(イエズス会本部への報告)によったものだから云えたことだったのだろう。——自分を守ろうとする願いが、信仰による物の見方さえユガメル。悪意がないだけに、おそろしい。

神さんよ。こんなことは、させないで・・・

原子 力発電の話し

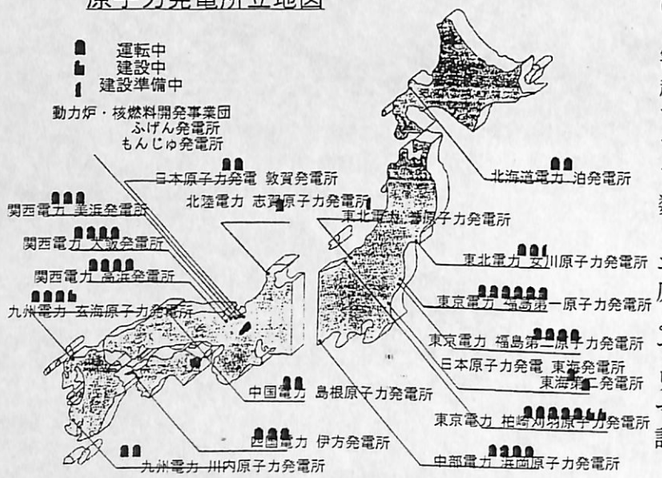
宮崎 佐喜男

「原子力」という言葉の響きから何を思い浮かべるだろうか。　年輩の方は原子爆弾、若年層は核兵器等それぞれ年代層によって安け止め方は違うだろうが、いずれにしてもどちらかというとマイナスイメージを持つ人が大多数と思う。ただ人類にとって役にたっているものもあるんです。　それは「原子力発電」です。核のエネルギーを利用しているという点では一緒だが「アトムズ・フオー・ピース」つまり「原子力の平和利用」という点では根本的に違うのです。普段何気なく使用している電気の多くが原子力発電によって賄われていることは意外と知られていないと思う。

電力供給の歴史を振り返って見ると昔は水力発電が殆どであった。それが日本の高度経済成長の時期にあたり、エネルギーの伸びに合わせて「火主水従」に転換した。その後石油ショックによって石油の供給に不安感が生じたこともあって、資源に乏しいわが国としては火力発電から原子力発電に主役の座を渡しつつある。皆さんは「原子力の日」があるのを御存知ですか？ わが国においては32年前の昭和38年10月26日 原子力により初発電に成功し、後にこの日10月26日が「原子力の日」と定められたのだそうです。

現在わが国にある原子力発電所は建設中あるいは建設準備中のものを含めると下図の様に発電所が18ケ所、原子炉の数56基となり数においては世界有数の原子力発電国といえる。

原子力発電所立地図



ただ、全電力に占める原子力発電の割合を見た場合、日本はようやく30%を超えた程度で、お隣りの韓国や台湾はすでに40%程度のウェートになっている。ちなみに最近核実験で話題になっているフランスでは実に70%強という驚くべき数字になっている。

こういった人類にとって最も重要なエネルギー供給源として注目されている原子力発電も、人間に長所と短所があるように、利便と危険が表裏一体に存在している。9年前の旧ソ連のチェルノブイリ原発での事故、又16年前の米国のスリーマイル島原発での事故についてはいまだ記憶に新しいところである。

こういった事故の経験を技術的改善に反映させたのはいわずもがなだが米国の場合、極く低い確率ではあるが原子力発電所では事故が起き得るという思想のもとで、いざ緊急時の「スクランブルマニュアル」を地域住民に配布したり、緊急避難ルートの整備を実施したと聞いている。

わが国においては幸いなことにこういった事故に遭遇していないが、それ以前の問題として原発事故に対する考え方に根本的な違いがあるように思われる。欧米諸国のように肯定的であるのに対し、日本の場合安全神話が前提で否定論から全て物事が進んでいる様に思えてならないからである。

ある調査によると欧米の中学高校に比べて日本の中学高校の放射線、放射能の教育が非常に遅れているそうである。こういった教育方針の違いもその現れではなかろうか。

前述の欧米における事故の後遺症もあり、人々の中には「反原発」の気分がもやもやしているのが現状だと思う。

今後、好むと好まざるに拘らず「原子力」は我々の生活に密着してくることが予想されることから、我々も　もっともっと「原子力」を理解し「原子力の平和利用」に対し関心を持ち続けたいものである。

バザー収益確定報告

先月、概算で報告しましたバザー収益は下記の通り確定しましたので、ご報告します。

￥387,665

なお、収益より2万円を、地元の福祉に役立てるため横浜市泉区 社会福祉協議会宛に寄付致します。
前回までの、シヤロームの家及び命の電話への寄付は取り止めとします。
皆様、ご協力大変有難うございました。

平成7年11月19日
バザー委員会　会計担当　甲 斐

聖地を巡礼しました　(6)

鶏　鳴　教　会

甲斐　至信

ローマ4日目の朝、イタリアでの巡礼を終え、イエス・キリストが人間の救いのために、生涯をかけて伝道を行なわれた、聖地イスラエルへ向けて出発します。3時間ほどでテルアビブ空港に到着です。

首都エルサレムは、緯度(およそ北緯32度)では日本の鹿児島あたりになります。
海岸沿いは、典型的な地中海気候で、夏は暑く、乾燥し、気温は30度以上になり、4～10月の6ヵ月は一滴の雨も降らない乾期で、アラビア半島からの風に乗ってくる砂漠の砂ぼこりが、緑の糸杉の木を白く覆ってしまう程ですが、私達の訪れた12月は雨期で、比較的過ごしやすい温暖な季節でした。
イスラエルは聖地にふさわしく、多くの場所が2千年前の雰囲気をそのまま残していて、巡礼者をしぜんにイエスの時代に招き入れてくれます。

エルサレムの城壁に囲まれた旧市街地は中世の城郭都市の面影を残しており、城壁内はキリスト教地区ユダヤ地区、アラブ地区、アルメニア地区と、イスラム教のモスクのあるテンプル地区の5つに分けられそれぞれが、自分たちの聖なる地としています。キリスト教地区の聖墳墓教会には、ローマカトリック教会、アルメニア教会、ギリシャ正教会、コプト教会が、それぞれ礼拝所を設けて、教会を共同管理しています。一つの教会内で、いくつもの宗派が順番に次々とミサを捧げる様子はまことに奇異な感じを受けましたが、先の、聖地の地区割りといい、この地の歴史を象徴していると思いました。
また、十字架の道行の第10～14留が、この教会のなかにあります。
城壁の西は新市街地で官庁街をはじめ高層ビルやモダンな住宅地が拡がっていて、東側にはオリーブ山、ゲッセマネの園、南側のシオンの丘には最後の晩餐の部屋、鶏鳴教会があります。

鶏　鳴　教　会

イスラエルでの巡礼は鶏鳴教会から始まりました。
イエスが捕らえられたとき、大祭司カヤパの官邸の中庭でペトロは人々に「この人はあの人と一緒にいた人だ」といわれた。三度目に否定すると鶏が鳴いた。
聖書に語られているイエスのカヤパ官邸での出来ごとを記念して、その場所に鶏鳴教会があります。

捕らえられたイエスは一人石段を通って連れていかれた。弟子達はみなイエスを見捨てて逃げ去ってしまった。連行された先は大祭司カヤパの官邸だった。カヤパ邸では、律法学者や長老達が集まってイエスの扱いを協議していた。
祭司長たちは、イエスを死刑にしたいと思い多くの偽証をたてたがうまくいかず、自から「あなたは神の子キリストなのか」と問い、ついに死刑にするものと断定した。

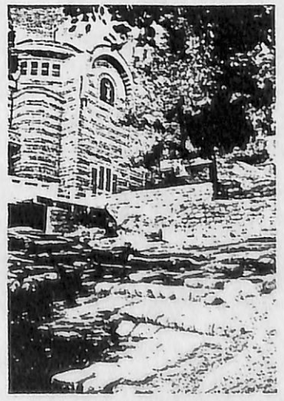
イエス当時の大祭司カヤパの官邸は、シオンの丘の東側に位置する鶏鳴教会の場所にあったとされる。イエスが十字架にかけられる前に、一晩を過ごされた獄屋の跡がこの教会の地下より発見された。イエスの苦難を偲ぶ貴重な聖跡である。この獄屋の石壁には捕らえた者の両手両足を縛るための穴があけられている。「それから、彼らは、イエスの顔に唾をかけ、こぶしで打ち、手の平で叩いた。」(ﾏﾀｲ26･27)
ペテロは中庭で、イエスの様子をうかがっていた。その時恐ろしさのあまり、死を賭してでもイエスに従うとの誓いにもかかわらず、三度イエスの弟子であることを否定した。主は振り向いて愛の瞳でペテロを見つめられた。そのとき鶏が鳴いた。ペテロはイエスの言葉を思い出して激しく泣いた。

当時カヤパは例外的に長く大祭司の座にいた。サドカイ派の人で、イエスを捕らえることに加担しただけでなく、使徒たちをも迫害した。ペテロとヨハネが捕らえられた時の裁判や、キリスト教最初の殉教者ステパノの裁判にも立ち合っている。

翌日カヤパはイエスをローマ総督ピラトに渡した。イエスはピラトの尋問をうけたが、ピラトはイエスになんの罪も見いだせず許そうとした。しかし祭司達の扇動にのった群衆の勢いにおされて、ついに十字架につけるために、イエスを兵士たちに渡した。

ユダヤ民族の最高の法的、宗教的権威をもっていたのは、エルサレムの議会であった。メンバーは70人で成立していたが、議長は世襲の大祭司で、サドカイ派の祭司とパリサイ派の賢者が議員であった。
後に、イエスを手厚く葬ったアリマタヤのヨセフも議員の一人だった。
イエスの裁判はこの議会で行なわれた。当時の議決の仕方は必ずいくつかの意見を対立させ、たとえ少数でも異論があれば、その異論と対比させ正論が証明される。だから全員が一致することはまずなかった。全員一致は何かの偏見よるもので、裁判は無効になるか一日おいて再審された。ところがイエスの裁判は「全員一致」であったが無効にも再審にもならず、そのまま刑が執行された。

当時ユダヤ人の死刑は「石打の刑」であり、神を冒涜したものは誰であれこの刑を科せられた。しかし大祭司カヤパはそれを執行せず、直接には関係ないローマ総督ピラトにイエスを死刑にするように引き渡した。ローマの死刑は十字架刑であった。
不当な議会の判決に最後まで自信の持てなかった大祭司カヤパはローマの政治力を借りてイエスを死刑にしたかったのである。



カヤパの官邸跡に建てられた鶏鳴教会と発掘された2000年前の石段。　捕らえられたイエスは一人この石段を上り連れていかれた。

第6回おわり